大極殿復原工事の一般公開

去る４月28日(金)から30日(日)の３日間、第一次大極殿正殿の復原工事現場において一般公開がおこなわれました。この一般公開は2004年からおこなわれており、今回で４回目となります。

今回公開されたのは初重全体と、その上に立つ二重目の柱および組物の状況です。初重は既に屋根の部分がほぼ完成しており、あとは瓦を葺くばかりとなっています。また、天井部分を見上げると一面の天井格子の中に美しく彩られた蓮華の彩色画を見ることができます。二重目はまだ柱を立てたばかりの状況ですが、今後これらの上にも様々な部材が組み上げられていくことによって、立派な屋根となることでしょう。

初日の28日の午前中は近隣住民の方々および関係者への内覧がおこなわれ、一般の方々へは28日の午後から公開がおこなわれました。また、29・30日の両日は平城宮跡内にて「なら遷都祭」が開催されていたことも重なって、３日間で実に20,731人もの方々が見学に訪れました。そのため、多少混雑した時間帯もありましたが、なにぶん大極殿が非常に大きな建物であるため、比較的ゆったりと見学できたのではないでしょうか。

大極殿の復原事業は文化庁により実施され、その完成は2010年予定です。復原工事もようやく折り返し地点を過ぎたところだと言えます。完成までまだ４年もありますが、その間には折に触れ、このような一般公開によって、大極殿が築かれていく様を皆様にご覧頂けると思います。

（都城発掘調査部　林 正憲）

大極殿一般公開風景

唐長安城太液池パネル展

奈良文化財研究所と中国社会科学院考古研究所は2001年より５年間、唐長安城大明宮にある太液池遺跡の共同調査をおこないました。

唐の都長安城は現在の中国陝西省西安市に位置しています。宮城のひとつ、大明宮の北半には皇帝の庭園がひろがり、その中央に神仙の住む蓬莱島とそれを囲む海を模してつくられたのが太液池です。

しかし、太液池についての文献史料は大変にすくなく、その具体的な様子を知ることは大明宮の構造や苑池の歴史、さらに日本古代苑池の源流を探求する上で大きな課題となっていました。両研究所はこの課題に取り組むために太液池の発掘調査を実施し、昨年度をもって終了しました。宮殿の苑池遺跡を対象とした大規模な調査は、中国でも初めての試みであり、成果の正式な刊行が期待されています。

この成果を平城宮跡資料館で５月27日から12月27日までパネル展示しています。日本ではなかなか見ることのできない、スケールの大きな遺跡です。この展示をとおして、中国との共同調査の様子を見ていただくと同時に、中国からあらためて日本の古代を考えるきっかけとなれば幸いです。

（都城発掘調査部　今井 晃樹）

平城宮跡資料館特設コーナーにて